

令和7年3月31日

令和6年度

事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

I. 施設関係

1. 特別養護老人ホーム

(1) はじめに

本年度は定員 40 名に対し、36.5 名の入所者数でした。月平均利用者実人員は 38.5 名と、昨年と比較し 1.9 名の増加です。長期入院、看取りなどによる退所者は 9 名、新規利用者は 10 名です。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 83.4 歳、女性 86.8 歳であり、男女合計の平均年齢は 85.8 歳です。なお、特養の年間平均稼働率は 91.05% です。令和 5 年度 87.5% に比べると、稼働率は 3.55% 上がっています。

表 1 前年度との比較 定員 40 名

項 目	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
平均年齢	85.4 歳	85.8 歳	85.8 歳
平均介護度	4.15	3.98	4.04
年度末平均人数	36 人	37 人	38.5 人
延べ定員数	14,600 人	14,640 人	14,600 人
1 日平均利用者数	34.4 人	35 人	36.5 人
稼働率	86.03%	87.5%	91.05%

表 2 退所者 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

退所者	人 数	理 由
死亡	3 人	入院による死亡
死亡	6 人	施設での看取り
入院	0 人	療養型病院へ入院
その他	0 人	家族転居による在宅復帰

(1) 入・退所の現状

①入院以外は、施設での看取りを行い、看護師・介護職・嘱託医・家族との連携を密に長く過ごしていただいた居室にて、最期を迎えてもらうことができました。

本年度は 6 名の看取りでお見送りをしました。ご家族についても年々看取りへの希望が高まっている状況です。

②新規利用者は 10 名でした。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多く、様子観察に注力しました。比較的施設の環境に慣れていただけた利用者が多く、ご家族と連携をとりつつ、一人ひとりの生活の形を整えていきました。

③ 新規利用者の声かけにおいては、中央区で入所調整したリストに沿って声かけをするシ

システムになっているが、入所に時間がかかるケースが多くなっており、自宅での介護を希望するご家族も増えているのが現状です。本年度の特徴として、声かけから入所までの流れの中で、要介護4、5の方ほど断られるケースが多くなっており、要介護3の方の入所が増えています。介護度の重い方については「現在の施設(老健等)でおちついているので当分入所は考えていない」といった断わりが多く、一方要介護3の方については「在宅での介護は困難なため、現在入所中の施設(老健等)からそのまま入所を希望する」という意向が多い。要介護3のレベルにおいては、身体的には自立度が高いが、認知症状が重いという方が多く、在宅においては寧ろ要介護4、5の方よりも介護負担が大きいと考えられます。

(2) 事業実績について

利用者の平均介護度は令和5年度の3.98に対し、令和6年度は4.04となっています。(別表2参照) 特養での対策としては、健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることです。そのため

- ①健康管理の徹底、衛生管理の徹底、日常生活での異常に対する早期発見・早期対応の徹底。
- ②ハード面の充実として、インフルエンザやノロウィルスの感染防止他、感染拡大の新型コロナウィルスへの防止策として、空気清浄機他、施設全体の除菌剤の配置などを強化しました。
- ③嘱託医による利用者の心身の定期的な健康管理として
 - ・定期的な健康診断、予防注射の徹底による感染症対策+
 - ・精神科医による精神面のケア、認知症状の緩和あ
 - ・歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持

その他、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力しました。多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図っていきます。

(3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、虐待防止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等に取り組みました。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動に力を入れ、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努めました。本年度は外部ボランティアとのふれあいの機会を増やし、心身の活性化を図りました。

リハビリテーションは、機能訓練担当の理学療法士を中心に、他職種との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することにしました。自立支援を目的とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひ

とりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取組みました。

表3 レクリエーションにおける効果

プログラム	心身機能への効果
音楽療法	唱歌、懐メロ等は、認知症状の緩和や精神面への良質な刺激となっている
セラピードック	月に2回のセラピードックは、利用者に寄添うことで癒しや、リハビリの効果をもたらせている
リハビリヨガ	心身のしなやかな動きは、自然に呼吸法を体得できる
書道・そろばん	昔、覚えのある方は自然に筆が動き、指が動き、モチベーションが上がってくる
チェアエクササイズ	身体を動かし、自由に伸び伸びと身体を表現でき、終わった後も、爽快感が残っている
アロマセラピー	アロマの香りを楽しみながら、五感に刺激を与えることで感性が豊かになってくる
コミュニケーションロボット・パロ、アイボ・パルロ・ペッパー	パロとの触れ合いにより、認知症の不安感、不穏を緩和してくれる。アイボは、様々な会話を引き出すきっかけになり、精神面の活性化が見られる
ベランダ菜園	認知症予防プログラムのひとつ。植物を育てることにより、心身への安定と、良質な刺激をもたらせる。

セラピードッグの様子



チェアエクササイズの様子



2. 短期入所生活介護

(1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的利用しやすい状況でした。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供しています。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげています。

別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年度105.4%に対して令和6年度は103.28%と減少しています。ショートステイ単独での年間稼働率は、184.84%であり、昨年度より39.89%減少していることから、特養の稼働率が3.55%上昇しているため、ショートステイのベッド稼働率を減少させたと言えます。

① 周辺環境の変化

区内の老健については、入所期間が1年間に延長となったことで、在宅におけるショートステイのニーズに影響が顕著である。

② 地域の課題

- ・認知症居高齢者の健康管理 食事・入浴・服薬等
- ・認知症高齢者の徘徊・火の不始末等
- ・独居高齢者の引きこもりによる認知症の進行
- ・高齢者世帯における体調管理
- ・高齢者世帯、独居高齢者の金銭トラブル

周辺環境の情報収集・地域の課題を分析し、ニーズを抽出することが重要です。緊急ショート、医療的対応等、多様なニーズにいつでも対応できるだけの層の厚い体制づくりをし、利用者の増員を図っていきます。

表4 前年度との比較 定員6名（空床利用）

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年度末平均年齢	83.9 歳	85.0 歳	84.5 歳
年度末平均介護度	3.58	3.40	3.37
年度末平均人数	43 人	40 人	35 人
延べ定員数	2,190 人	2,196 人	2,190 人
1日平均利用者数	13.6 人	13.5 人	11.1 人
稼働率	243.01%	224.73%	184.84%

(2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機(介護ロボット)を

活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能としました。本年度も 6 名の利用者に活用しています。

介護：身体状況に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体状況に適した食事を提供しています。

入浴：週 3 回以上。身体状況に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っています。

個別機能訓練：小集団訓練の他、希望される利用者には、機能訓練士による個別機能訓練が受けられます。その他、レクリエーション・音楽療法・セラピードッグ等。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素・喀痰吸引等の医療的対応も実施しています。

(3) サービスに関する苦情・相談

苦情・要望については、速やかに受付票に記録し、誠意を持って対応し解決いたしました。

(4) 一年の状況と今後の課題

ここ数年の特徴として

① 2ヶ月前の申込みが減少

ショートステイの申込みは通常 2ヶ月前を基本としているが、家族の生活スタイルの変化に伴い、1ヶ月前頃より徐々に増えている傾向です。本年度も緊急ショートステイの申込みが多くありました。

② 地域、在宅の課題への対応

在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきています。地域・在宅における課題が、そのままショートステイ利用につながっていきやすく、緊急ショートステイ利用が顕著に増えています。

その一方で、区内の老健が 1 年間入所期間を延長したことで、ショートステイのニーズに影響が出ています。今後、新たなニーズを開拓することが急がれます。

在宅における利用者、家族を支えるためのショートステイの役割は、今後もますます重要となるでしょう。そのためには、いつでも対応できる体制づくりと、職員への教育が不可欠です。

3. 通所介護

(1) 利用者の状況

① リハビリニーズへの対応

年齢、性別に関係なくリハビリへのニーズは高く、デイサービスへの目的のひとつでもあります。在宅生活を維持していく上で、心身機能の維持、日常生活動作の維持は重要であり、機能訓練士のみならず、看護、介護、相談員が連携してニーズに対応しています。

③ 朝食サービス～夕食サービスまで対応

食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス等利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に務めました。

本年度は、特に就労中の家族からのニーズが顕著であり、朝食から夕食までの対応が多くありました。利用者様のニーズからご家族のニーズまで、幅広く対応いたしました。

④ 医療的対応について

前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいました。胃ろう、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素、喀痰吸引、褥瘡処置、ストマ交換、ネプライザー等。これら医療的対応に応じるため、看護師2名体制をとり、手厚いケアに務めています。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題です。また、訪問診療を利用している利用者が7割となり、デイの看護師、相談員と、居宅ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との連携が密となっています。

令和6年度の利用実人員は別表8のとおり1,150人、利用実人員は前年度1,122人と比べて、28人増加、稼働率は74.87%と昨年より3.37%上回っています。延べ利用数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均8.08回となり、前年よりも約1.92%増加しています。利用者の平均年齢は別表7のとおり男女合計の平均では83.8歳となっています。内訳では男性81.3歳、女性85.0歳で、前年よりも低くなっています。平均介護度は3.20と、前年より高くなっています。

新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家族の就労継続、リハビリ、入浴希望等、様々な理由による申し込みがあります。デイサービスに係わる送迎利用率は99.7%、入浴利用率は85.7%となっています。前述したとおり、特養・ショートに関しては既に100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務です。

表5 前年度との比較 定員34名

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年度末平均年齢	83.1歳	83.4歳	83.8歳
年度末平均介護度	3.00	3.17	3.20
実人数	1,105人	1,122人	1,150人
延べ定員数	12,410人	12,414人	12,410人
1日平均利用者数	23.3人	24.4人	25.5人
稼働率	68.51%	71.5%	74.87%

(2) 運営状況

①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催しています



春のお花見



盆踊り



新年 福笑い



すいか割り大会



秋の大運動会



築地ライオンズによるクリスマス会



クリスマスコンサート (ハンドベル)



アロマテラピー

表 6 主な行事

4 月	・お花見 小人数ずつ京橋公園へお花見に行った。利用者のイキイキとした表情に、季節感を味わうことの大切さを思う。・
5 月	・5 月 1 日～7 日まで、菖蒲湯祭り 菖蒲の香りに季節感を堪能した。 ・企業ボランティアの方々が企画したレクリエーションに、利用者様も盛り上がった。
6 月	・紫陽花鑑会 苑内庭に開花した紫陽花を鑑賞、皆で季節感を楽しんだ ・大正琴演奏会にて季節の歌を演奏してもらい皆で初夏を楽しんだ
7 月	・七夕さま 利用者・職員ともに短冊づくりを楽しむ。コロナ収束を祈り、短冊を笹の葉に飾り付けし、涼やかに七夕さまを送った。 ・スイカ割り大会 デイ・特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。大会後のスイカのおやつは格別である。 ・浜町音頭保存会の方々による、踊りと歌の華やかな会を開催。利用者様も踊りの輪に入り、浜町音頭を楽しんだ。
8 月	・盆踊り大会 地域ボランティアの協力のもと、盆踊り大会を開催した。
9 月	・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。久寿玉を長寿の利用者に割ってもらい、健康寿命の大切さを皆で話し合うひと時を設けた。
10 月	・運動不足解消のため、運動会を開催 ボールゲームに盛り上がった。
11 月	・紅葉狩りは紅葉した葉を使って、工作を楽しんだ。 ・アロマテラピー
12 月	・クリスマスコンサート 職員による演奏会を開催。ハンドベル・ホルン・ピアノ等、様々な音色の演奏会は大変好評だった。 ・恒例の築地ライオンズによるクリスマス会。歌手による歌のプレゼントは利用者の心をなごませてくれた。
1 月	・新年会 利用者、職員との新年会は、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。 ・ビンゴ大会を開催 景品のお年玉袋を抱えた利用者の笑顔がイキイキと映えた。
2 月	・2 月 3 日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。 ・運動不足を防止するため、運動レクを増やしていく。
3 月	・家族会については、再開を検討中

⑤ 送迎について

階段昇降機(スカラモビル・J-マックス)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができました。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日 2 名～4 名の利用者

の昇降を行っています。

送迎においては、中央区他、江東区、港区、千代田区、墨田区まで実施しており、99.1の送迎率となっています。

⑥ 入浴について

デイサービス利用理由の大きなひとつとして入浴があります。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は87.1%です。

身体状況に応じた入浴形態で対応しています。皮膚の異常、バイタルの変動等、入浴時に気づくことが多く、看護師が2名体制で対応しています。

⑦ 機能訓練

機能訓練士による個別機能訓練を実施しています。リハビリテーション病院を退院後に通われている利用者も多く、身心機能の維持に努めています。歩行アシスト、免荷式歩行器ポポ、ウォークトレーニングロボといったリハビリ・ロボットを活用しながらの訓練は、利用者のモチベーションも向上し、リハビリ効果を見せています。

4. 特養・デイサービス合同

(1) 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し

- ①年中行事委員会 ②栄養委員会 ③身体拘束廃止委員会 ④排泄・褥瘡委員会
- ⑤ケアプラン委員会 ⑥感染症対策委員会 ⑦事故防止対策委員会 ⑧防災対策委員会
- ⑨リハビリ委員会 ⑩環境・口腔ケア委員会 ⑪安全・衛生委員会(介護職のための)
- ⑫生産性向上推進委員会

(2) 行事

四季折々の各種行事は、3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して各種行事に取り組みました。

(3) 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在1名の職員が入団しています。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めました。新規に採用された職員には、消防機器訓練を随時実施しています。さらに、京橋消防署への研修参加の他、地域等の協力を得て、毎月1回「震災・消防訓練」を実施しています。

(4) 職員研修

- ・4月～3月：毎月1回 本年度もオンライン研修を実施しました。
ZOOM を使うことで、法人全施設とつながることが可能となり、同時刻に一斉に研修を受けることができるようになったことは、コロナ禍での大きな収穫です。
- ・ネット配信サービスを活用した「eラーニング研修」を導入。職員が自分のペースに合わせて、希望するプログラムをいつでも受講することができるというメリットがあります。

表7 資格取得等に向けた職員研修(令和5年4月～令和6年3月)

研 修 名	特 養	通 所	訪 問
初任者研修	3人	1人	0人
実務者研修	1人	2人	1人
介護福祉士資格取得研修	0人	0人	0人
賛育会病院主宰・感染症対策研修	3人	1人	0人
権利擁護：虐待防止研修	1人	1人	0人
口腔ケア研修会	3人	1人	1人

表8 社 内 研 修

No.	名 称	開催日	参加人数	実 績
	オンライン研修 18:00～19:00	令和6年4月初～ 令和7年3月末	特養 デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	身体拘束廃止・虐待防止について	4/8	22名	特養4名・デイ6名・訪問3名 栄養士1名・機能訓練士2名 事務2名 相談員2名 施設長1名 ケアマネ1名
3-2	事故防止への取組みについて	5/13	19名	特養4名・デイ5名・訪問2名 栄養士1名・機能訓練士3名 事務2名 相談員1名 施設長1名
3-3	感染症対策について	6/10	19名	特養3名・デイ6名・訪問2名 栄養士1名・機能訓練士2名 事務2名 ケアマネ1名 施設長1名 看護師1名
3-4	脱水・熱中症・水分補給について	7/8	18名	特養4名・デイ4名・訪問2名 栄養士1名・機能訓練士2名・相談員1名・事務2名・ケアマネ1名・施設長1名

3-5	特別養護老人ホームにおける褥瘡ケアについて	8/12	21 名	特養 3 名・デイ 6 名・訪問 1 名 栄養士 1 名・機能訓練士 2 名・相談員 1 名・看護師 2 名・事務 2 名・施設長 1 名
3-6	新型コロナウイルス・インフルエンザ及び、その他の感染症対策について	9/9	20 名	特養 3 名・デイ 7 名・訪問 1 名 栄養士 1 名・機能訓練士 2 名・ケアマネ 1 名・相談員 1 名・事務 2 名・施設長 1 名・看護師 1 名
3-7	特別養護老人ホームにおける看取り介護について	10/14	20 名	特養 4 名・デイ 6 名・栄養士 1 名 機能訓練士 2 名・ケアマネ 1 名 相談員 1 名・事務 2 名・施設長 1 名・看護師 2 名
3-8	介護施設・事業所における事故防止について	11/11	22 名	特養 4 名・デイ 6 名・栄養士 1 名 機能訓練士 2 名・ケアマネ 1 名 相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名
3-9	高齢者虐待防止に向けた取組みについて及び	12/9	20 名	特養 4 名・デイ 5 名・栄養士 1 名 機能訓練士 2 名・ケアマネ 1 名・相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名
3-10	認知症高齢者への理解とケア	1/13	22 名	特養 4 名・デイ 5 名・栄養士 1 名 機能訓練士 3 名・ケアマネ 1 名・相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名・看護師 2 名
3-11	新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症対策について	2/10	20 名	特養 4 名・デイ 6 名・訪問 2 名・ 栄養士 1 名・機能訓練士・ケアマネ 1 名・相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・1 名
3-12	特別養護老人ホームにおける看取り介護について	3/10	16 名	特養 3 名・デイ 5 名・栄養士 1 名 機能訓練士 2 名・ケアマネ 1 名・看護師 1 名・事務 2 名・施設長 1 名・
3-13	新人研修 認知症高齢者への理解とケア 事故防止への取組み 身体拘束廃止・虐待防止への取組み	4/13・6/3・7/31 1/30	4 名	特養 2 名 デイ 2 名

(6) ボランティア・実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをしています。

定期的なボランティアとして書道ボランティア、傾聴ボランティア等が年 12 回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれています。

本年度は実習生の受入れ 10 名、職場体験 3 名、インターンシップ 13 名の受入れがありました。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに良質な刺激をもたらせる効果があるため、積極的に受け入れていきます。

表 9 令和 6 年度・実習生等の受け入れ

項 目	人 数 (延)
介護福祉士取得	0 人
教員免許取得希望者介護体験	29 人
職場体験	6 人
インターンシップ	5 人
小・中学生ボランティア実習	3 人
イナッコ教室ボランティア	3 人
春休み福祉体験合宿	0 人

(7) 技能実習生の受け入れ

本年度は、技能実習生の受入れはありません。

(8) 本年度の取組みについて

◆特養・デイ合同

期 間：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月末

2024/4/1 ～ 活動履 歴		
4 月 3 日	スペイン エル・パイス紙 ゴンサロ・ロブレド記者インタ ビュー	見学取材
4 月 8 日	オランダ、Berenschot 社 15 名 施設見学	見学取材
5 月 9 日	韓国、保健福祉部、国民健康保険公団、目白大学人間福祉学 科 計 10 名	見学取材

5月11日	スペイン エル・パイス紙 写真家 林紀子氏 撮影	見学取材
5月20日	カナダ医師団 18名	見学取材
5月21日	静岡県日中友好協議会 20名	見学取材
5月23日	スペイン エル・パイス紙 ゴンサロ・ロブレド記者 追加取材	見学取材
6月5日	中国 成都指南針網科技股份有限公司 6名 施設見学	見学取材
6月11日	大韓民国 LGE 新規事業開発担当 2名 施設見学	見学取材
6月18日	(仏)クレディ・アグリコル銀行地域銀行副頭取訪問の日本法人事前見学	見学取材
6月22日	北京 中海企業グループ 8名 施設見学	見学取材
7月5日	イタリア TV 番組取材	見学取材
7月7日	Inforesidencias.com(スペイン最大の介護施設検索サイト)25名 施設見学	見学取材
7月22日	台湾 高雄醫學大學(Kaohsiung Medical University) 7名 施設見学	見学取材
7月25日	SivanS 株式会社(広告代理店) 3名 イスラエル使節団の事前見学	見学取材
8月23日	嘉泉(ガチョン)大学校 バイオ医療機器学科 5名 施設見学	見学取材
9月9日	蘇州市養老産業連合会 20名 施設見学	見学取材
9月17日	デンマークの記者、パロの開発者 柴田 崇徳氏と施設を取材	見学取材
9月19日	イスラエルより使節団 30名 施設見学	見学取材
9月24日	株式会社リクルートより研究員 1名 調査	見学取材
9月28日	カナダ モントリオールの記者、パロの開発者 柴田 崇徳氏と施設を取材	見学取材
10月2日	大韓民国 京畿道老人福祉協議会 20名 施設見学	見学取材
10月3日	大韓民国 社団法人老人福祉中央会 34名 施設見学	見学取材
10月3日	香港特別行政区社会福祉部門 9名 施設見学	見学取材
10月4日	スウェーデン 高齢者・社会福祉担当大臣 アンナ・テニエ氏 施設見学	見学取材
10月11日	天津より Healthcare 分野の4名、施設見学	見学取材
10月17日	上海 医療視察団 9名 施設見学	見学取材
10月18日	北京清华大学卒の企業家・経営者 26名 施設見学	見学取材
10月21日	パウラ・ペドラザ 芸術の視点から介護現場とロボットをリサーチ	見学取材
10月23日	中国より投資家グループ 30名 施設見学	見学取材

11月12日	(仏)クレディ・アグリコル銀行地域銀行副頭取28名 施設 見学	見学取材
11月13日	大韓民国「陽川区地域社会保障協議体」館長クラス20名 施 設見学	見学取材
11月16日	タイ公共放送 PBS ニュース番組への取材協力	見学取材
11月27日	オランダ大使館 6月の使節団来日に向けて、事前見学	見学取材
11月28日	厚生労働省大臣官房国際課 課長、係長 施設見学	見学取材
12月15日	米国 The Chicago School 16名 施設見学、ボランティア 参加	見学取材
12月17日	外務省「対日理解促進交流プログラム」 シンガポールから社会福祉を学んでいる高校生2名 施設 見学	見学取材
12月18日	英国人作家 John Kampfner 氏 次の作品のための取材	見学取材
1月9日	カナダ CBC ラジオドキュメンタリー/WEB版 番組取材	見学取材
1月13日	カナダ CBC 追加取材	見学取材
1月16日	大韓民国 忠北大学 卒論取材 4名	見学取材
1月24日	フジ TV「イット！」内、「あすがよくなりますように」取 材	見学取材
1月29日	介護で起業を考えている東京大学法学部3年 施設見学、 インタビュー	見学取材
2月26日	Julien Solonel 氏 フランスの日刊紙『ル・パリジャン』の 取材	見学取材
3月11日	静岡県日中友好協議会の招聘による、中国の福祉施設経営者 20名	見学取材
3月19日	大韓民国始興(シフン)市 始興市庁老人福祉課課長4名	見学取材
3月26日	大韓民国 女性政策研究院 5名	見学取材
12月17日	介護服 評価	4Care Fashion/ オランダ大使館
9月17日	試作介護機器へのアドバイス支援事業 06-B05 移乗機 JUST 有限会社京和工業	テクノエイド協 会
8月29日	試作介護機器へのアドバイス支援事業 06-B06 クラウド型バイタル(生体信号)測定器 株式会社ネクステ ィ エレクトロニクス	テクノエイド協 会
10月4日	介護ロボット等モニター調査事業 06-C05 【介護業務支援】非接触型おむつセンサー AlgoDetect(アルゴディテクト) 株式会社ツカモトコーポレーション	テクノエイド協 会

1 月 22 日	自助具 ユニバーサルテープ モニター	株式会社ニッシリ
12 月 16 日	【ロボット認証】2 次審査 株式会社トーネットシステム SHcS スマートヘルスケアシステム	かながわ福祉サービス振興会
1 月 29 日	【ロボット認証】2 次審査 株式会社エヌジェイアイ 安心ひつじα	かながわ福祉サービス振興会
7 月 24 日	Help Pad 2 新とみ リーダーMTG 第 1 回	株式会社 a b a
7 月 30 日	Help Pad 2 新とみ リーダーMTG 第 2 回	株式会社 a b a
8 月 14 日	Help Pad 2 新とみ リーダーMTG 第 3 回	株式会社 a b a
11 月 22 日	Help Pad 2 MTG 宇井社長来苑	株式会社 a b a
12 月 2 日	Help Pad 2 新とみ リーダーMTG 再開	株式会社 a b a
12 月 19 日	Help Pad 2 新とみ リーダーMTG 再開 第 2 回	株式会社 a b a
1 月 10 日	Help Pad 2 新とみ リーダーMTG 再開 第 3 回	株式会社 a b a
11 月 13 日	個別相談事業 コンサルタントは日本経営 1 回目 課題の抽出	東京都福祉保健財団
12 月 10 日	個別相談事業 コンサルタントは日本経営 2 回目 課題解決に向けて	東京都福祉保健財団
1 月 7 日	個別相談事業 コンサルタントは日本経営 3 回目 進捗管理	東京都福祉保健財団
2 月 13 日	個別相談事業 コンサルタントは日本経営 4 回目 振り返り	東京都福祉保健財団

◆デイサービス

認知症予防プログラムへの取り組み

- ・ゴーヤカーテンづくり
- ・ベランダ菜園

本年度も昨年に引き続き利用者様へのプログラムの一環として、認知症予防プログラム：ゴーヤカーテンづくり、ベランダ菜園に取組みました。

種を蒔くことから始め、発芽し、蔓が伸び、つぼみをつけ、花と開花していく様は利用者を活気づける良質なプログラムです。

本年度は、猛暑による影響から成長途中で干からびてしまった実も多く、今後は暑さ対策を検討していきます。



収穫に喜ぶ利用者の皆さま

(9) 地域公益活動

① 東京子育て応援事業

平成 28 年 6 月～平成 30 年 3 月末の 2 ヶ年にかけて、東京都の助成事業「東京子育て応援事業」に取り組んできましたが、助成期間を過ぎた後も継続して運営してきました。

平成 30 年 4 月からは、法人の独自事業として「子ども英会話教室」を開催し「子どもそろばん教室」「子ども食堂」と併せて、地域の子どもたちの安心・安全な居場所づくりとして役割を果たしていきます。

令和 3 年度以降は、法人独自の事業として取り組んできました。本年度は、子ども英会話教室への企業ボランティアの参加が大変多く、子どもたちはボランティアとの交流の中で、英会話や食事を楽しんでいます。子育て応援事業の目的である「豊かなコミュニケーションと、食育」は、様々な支援のかたちで実施されています。

【実施状況】 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月末

※子ども食堂は令和 5 年 4 月の英会話教室・そろばん教室より再開しました。

○新とみ 子どもそろばん教室	12 回開催	述べ生徒人数	85 名
		延べボランティア人数	21 名

○新とみ 子ども英会話教室	12 回開催	延べ生徒人数	156 名
---------------	--------	--------	-------

延べボランティア人数 95 名

令和 6 年度は、子ども英会話教室・そろばん教室は月 2 回開催、あわせて「子ども食堂」も実施しています。新とみでは英会話教室は、延べ生徒人数 156 名、企業ボランティア・地域ボランティアは延べ 95 名の方にご協力を頂いております。またそろばん教室では、延べ 86 名の生徒が参加しています。

子ども英会話教室・そろばん・みんなで食事



令和 6 年 4 月から令和 7 年 3 月

5. 訪問ヘルパーステーション

(1)はじめに

平成 28 年 3 月 1 日、新とみ併設として「ウィング訪問ケアステーション」を開設しました。本年度も新規利用者の開拓に力を入れましたが、移動時間の効率性・ヘルパーの

負担軽減・業務効率を考え、近隣でのサービス開拓に注力いたしました。

また、本年度は訪問職員に退職者が出たため訪問件数も調整があり、売上にも影響がありました。

1. サービス提供時間 8時30分～18時(時間外については応相談)
2. 実施地域 中央区・港区・千代田区・江東区
3. サービス内容 身 体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等
生活援助：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等
4. 本年度利用者実人数 359人 昨年度 436人
5. 新規利用者数 25人 昨年度 28人

表 10 要介護度別利用者状況

要介護度	5年度利用人数	5年度延人数	6年度利用人数	年度延人数
要支援 1	60人	341人	46人	234人
要支援 2	101人	635人	75人	422人
要介護 1	111人	1,072人	108人	1,164人
要介護 2	42人	341人	64人	533人
要介護 3	103人	1,131人	40人	412人
要介護 4	18人	338人	25人	476人
要介護 5	1人	8人	1人	2人

① 利用者の状況

表 10にあるように、要支援から要介護 5の利用者まで、生活、身体介助と幅広いニーズがあります。要支援の利用者には、利用者の自立支援を促す援助を行うことが重要であり、質の高い援助技術が求められます。

在宅においては、介護度の高い利用者が訪問介護サービスを利用しながら在宅生活を維持しており、利用者はもとより、家族の生活を支える上でも訪問介護は重要な役割を果たしています。

今後、訪問看護、訪問診療等様々なサービス提供事業者との連携が不可欠であり、情報共有を図りながら、清潔かつ安心・安全な在宅生活の維持に努めます。

②地域・在宅の課題

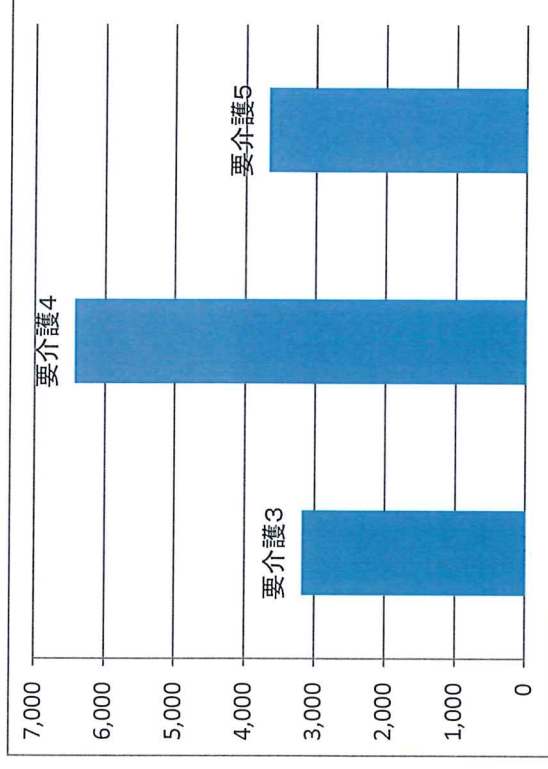
- ・在宅における、劣悪な療養環境の問題
- ・認知症状の進行におけるもの盗られ妄想による金銭トラブル
- ・近隣住民とのトラブル
- ・家族の介護ストレスによる心疾患

これら地域・在宅における課題は、訪問ヘルパーが関わるケースも多々あり、研修を始めとした教育は必須であり、質の高いサービス提供が急がされます。

(別表3)

	性別	人数	平均年齢	年齢分布
特養	男	11名	83.4	61～94
	女	27名	86.8	75～97
	(全体)	38名	85.8	61～97

＜月別利用者の状況＞



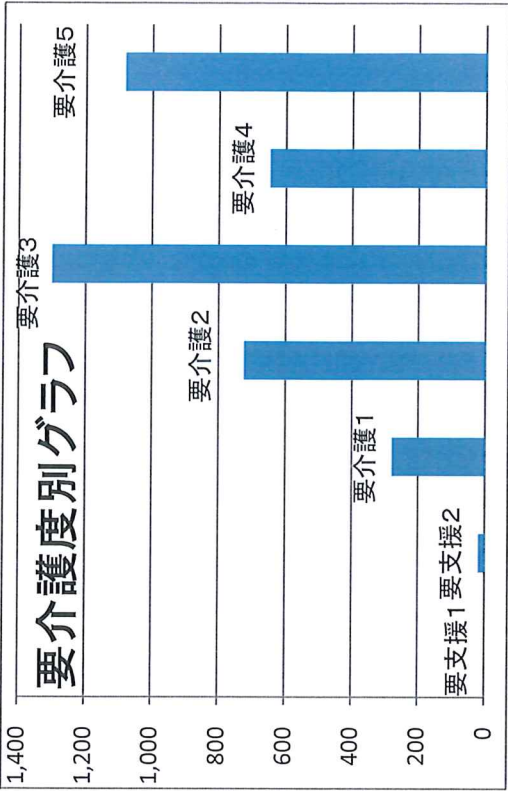
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養（定員40名）	要介護3	210	190	210	231	217	214	265	324	364	341	308	310	3,184
	要介護4	605	612	594	504	508	472	507	510	518	525	496	584	6,435
	要介護5	270	318	337	382	336	300	338	285	276	279	252	301	3,674
	計	1,085	1,120	1,141	1,117	1,061	986	1,110	1,119	1,158	1,145	1,056	1,195	13,293
	要介護平均	4.06	4.11	4.11	4.14	4.11	4.09	4.07	3.97	3.92	3.95	3.95	3.99	4.04
	実人員	37	38	39	39	37	35	38	38	38	38	39	40	457
	述べ定員数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,240	1,120	1,240
1日平均利用人数(人)	36.2	36.1	38.0	36.0	34.2	32.9	35.8	37.3	37.3	37.4	36.9	37.7	38.5	36.5
稼働率	90.42%	90.32%	95.08%	90.08%	85.56%	82.17%	89.52%	93.25%	92.34%	93.39%	92.34%	94.29%	96.37%	91.05%

(別表4)

< 年度末平均年齢 >

	性別	人数	平均年齢	年齢分布
ショートステイ（介護予防含む）	男	12名	82.8	71～92
	女	23名	85.3	68～97
	(全体)	35名	84.5	68～97

(別表6)



(別表5)

< 月別利用者の状況 >

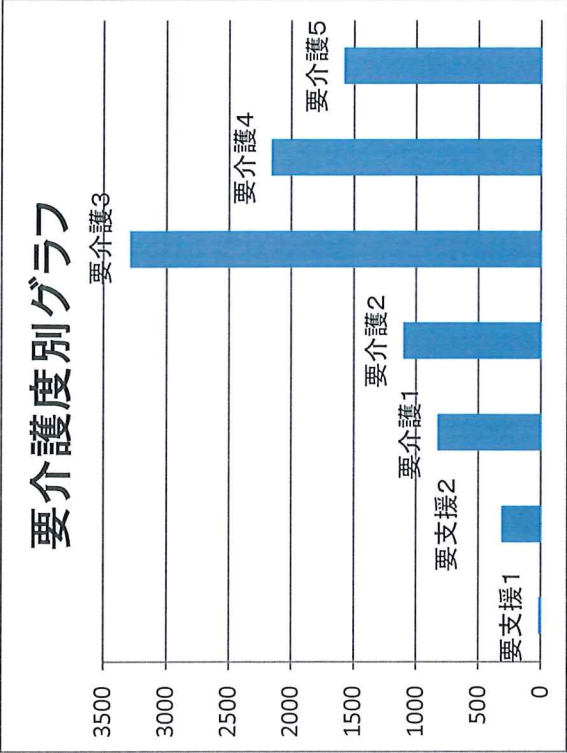
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ショートステイ（介護予防含む）（定員6名）														
要支援1														0
要支援2										3	8	7		18
要介護1		23	53	37	13	26	19	10	4	49	19	19	7	279
要介護2		60	68	63	83	62	82	43	75	35	59	49	44	723
要介護3		153	82	83	107	149	133	133	102	85	98	91	84	1,300
要介護4		41	33	39	32	51	75	48	47	85	73	61	62	647
要介護5		74	78	82	100	125	114	133	88	64	73	70	80	1,081
計		351	314	304	335	413	423	367	319	326	329	290	277	4,048
要介護平均		3.24	3.05	3.22	3.37	3.45	3.43	3.68	3.42	3.20	3.33	3.39	3.59	3.37
実人員		42	39	43	47	51	54	45	38	40	40	31	35	505
延べ定員数		180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2,190
1日平均利用者数(人)		11.7	10.1	10.1	10.8	13.3	14.1	11.8	10.6	10.5	10.6	10.0	8.9	11.1
稼働率		195.00%	168.82%	168.89%	180.11%	222.04%	235.00%	197.31%	177.22%	175.27%	176.88%	172.62%	148.92%	184.84%

(別表7)

< 年度末平均年齢 >

	性別	人数	平均年齢	年齢分布
デイサービス （介護予防含む）	男	29名	81.3	55～97
	女	59名	85.0	66～97
	(全体)	88名	83.8	55～97

(別表9)



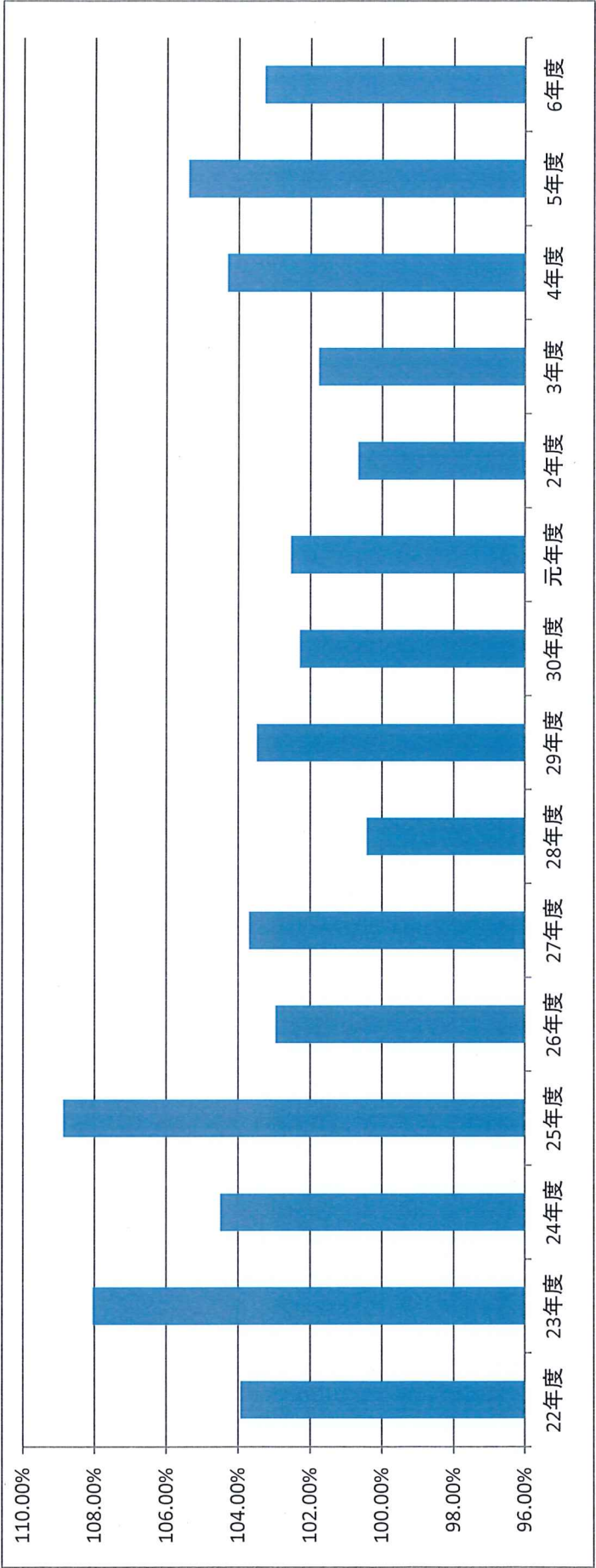
(別表8)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
デイサービス（介護予防含む）（定員34名）	要支援1	3	4	1	5	4							17
	要支援2	30	32	29	26	30	28	16	25	25	23	22	314
	要介護1	67	73	86	102	79	82	56	62	55	45	52	831
	要介護2	100	78	85	71	60	74	94	112	101	108	120	1,103
	要介護3	257	270	250	233	296	299	270	292	278	268	271	3,288
	要介護4	144	182	177	175	192	168	188	193	204	169	190	2,159
	要介護5	146	144	136	141	141	144	126	126	132	101	106	1,579
	計	747	783	764	753	802	795	750	810	795	714	761	9,291
	要介護平均	3.18	3.22	3.17	3.16	3.23	3.20	3.27	3.20	3.26	3.18	3.18	3.20
	実人員	96	94	95	99	98	96	100	96	96	92	90	1,150
	述べ定員数	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	1,020	1,020	1,054	1,054	952	1,054	12,410
	1日平均利用者数(人)	24.9	25.3	25.5	24.3	25.9	26.5	25.0	26.1	25.6	25.5	24.5	25.5
	稼働率	73.24%	74.29%	74.90%	71.44%	76.09%	77.94%	73.53%	76.85%	75.43%	75.00%	72.20%	74.87%

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特 養 ・ シ ョ ー ト （ 定 員 4 6 名 ）	特養	1,085	1,120	1,141	1,117	1,061	986	1,110	1,119	1,158	1,145	1,056	1,195	13,293
	ショートステイ	351	314	304	335	413	423	367	319	326	329	290	277	4,048
	計	1,436	1,434	1,445	1,452	1,474	1,409	1,477	1,438	1,484	1,474	1,346	1,472	17,341
	延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,288	1,426	16,790
	稼働率	104.06%	100.56%	104.71%	101.82%	103.37%	102.10%	103.58%	104.20%	104.07%	103.37%	104.50%	103.23%	103.28%

(別表11)



稼働率

22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
103.93%	108.05%	104.50%	108.88%	102.96%	103.69%	100.42%	103.48%	102.29%	102.54%	100.67%	101.77%	104.31%	105.40%	103.28%